

# 第 45 回 歯 科 衛 生 研 究 会

平成 28 年 7 月

## 講 演 抄 録 集

日 時 / 平成 28 年 7 月 20 日 (水) 特別講演 午後 3 時 30 分  
一般講演 午後 6 時

会 場 / 日本歯科大学新潟生命歯学部アイヴィホール

日本歯科大学新潟短期大学

歯科衛生研究会

会 長 又賀 泉

副 会 長 池田裕子、宮崎晶子

実行委員長 今井あかね

副実行委員長 小菅直樹

企画運営委員 中村直樹、浅沼直樹、佐藤律子、三富純子、土田智子、  
元井志保、平野恵実

庶務連絡委員 佐藤治美、筒井紀子、菊地ひとみ、煤賀美緒、吉富美和

事務担当委員 山田麻里子

[一般口演・口演者の方へ]

- 1) コンピュータで投影をする方は、発表データのUSBフラッシュメモリーまたはCD-Rを持参して下さい。
- 2) 当日 14 時 00 分～15 時 00 分と 16 時 50 分～17 時 30 分に、コンピュータ投影テストおよび予備のノートパソコンへのデータの保存を行ないますので、都合の良い時にデータを持って会場にお越しください。
- 3) 一般口演の発表時間は 8 分（予鈴 7 分で青ランプ、終鈴 8 分で赤ランプ）、討論時間は 4 分です。
- 4) その他のお知らせ事項は、当日受付で致します。

## 第 45 回 歯科衛生研究会プログラム

日時 平成 28 年 7 月 20 日 (水)

特別講演 15 時 30 分～16 時 45 分

一般講演 18 時 00 分～19 時 15 分

会場 日本歯科大学新潟生命歯学部 アイヴィホール

<15:30-15:35>

「開会の辞」 会長 又賀 泉

### 特別講演

座長 浅沼 直樹

<15:35-16:35>

『知って役立つ労働法 ～働くときに必要な基礎知識～』

雇用環境改善・均等推進監理官 宇尾野 秀明 氏

(新潟労働局雇用環境・均等室)

<16:35-16:40>

質疑応答

<16:40-16:45>

感謝状の授与・記念写真

### 一般口演

座長 佐々木 典子

<18:00-18:12>

1. 口腔乾燥に対する半球状ラバー付き歯ブラシの有用性

○筒井紀子<sup>1</sup>、大森みさき<sup>2</sup>、今井あかね<sup>1,3</sup>、土田智子<sup>1</sup>、煤賀美緒<sup>1</sup>、三富純子<sup>1</sup>、宮崎晶子<sup>1</sup>、佐藤治美<sup>1</sup>、元井志保<sup>1</sup>、菊地ひとみ<sup>1</sup>、両角祐子<sup>4</sup>、佐野 晃<sup>5</sup>、大天 繁<sup>5</sup> (1新潟短期大学 歯科衛生学科、<sup>2</sup>新潟病院総合診療科、<sup>3</sup>新潟生命歯学部生化学講座、<sup>4</sup>新潟生命歯学部歯周病学講座、<sup>5</sup>デンタルプロ株式会社)

<18:12-18:24>

2. 平成 27 年度 歯科衛生科におけるインシデント報告の集計と検討

○澤田佳世<sup>1</sup>、土田江見子<sup>1</sup>、池田裕子<sup>1</sup>、本間浩子<sup>1</sup>、戸谷収二<sup>2</sup>、佐野公人<sup>3</sup> (1新潟病院歯科衛生科、<sup>2</sup>新潟病院口腔外科、<sup>3</sup>新潟生命歯学部歯科麻酔学講座)

<18:24-18:36>

3. 日本歯科大学新潟病院歯科衛生科口腔ケアグループ 平成 27 年度活動報告

○鈴木明子、風間雅恵、榎 佳美、渡部 泉 (新潟病院歯科衛生科)

座長 榎 佳美

<18:36-18:48>

4. H27年度 教育グループ活動報告

○中島瑞恵 遠藤佑香 畠由美子 (新潟病院歯科衛生科)

<18:48-19:00>

5. 平成27年度 歯科治療技術・材料グループ活動報告

〈5Sラウンド評価基準に基づく材料管理の現状〉

○松岡恵理子 藤田浩美 古厩かおり 松田知子 (新潟病院歯科衛生科)

<19:00-19:12>

6. 患者サービス向上グループ H27年度活動報告及び今後の方向性の検討

○片桐美和 大澤えり子 佐々木典子 拝野敏子 (新潟病院歯科衛生科)

<19:12-19:15>

「閉会の辞」 副会長 池田 裕子

## 特別講演

### 演題名

知って役立つ労働法 ～働くときに必要な基礎知識～

### 講師

宇尾野 秀明

新潟労働局雇用環境・均等室

雇用環境改善・均等推進監理官

### 講演要旨

- 就職した学生の3割が3年以内に離職...
  - 何が原因か、その時どうする？
- 就職にあたって... アルバイトでも...
  - 働いていて「おかしい」と思ったとき
  - 実際に困ったとき（給料が少ない、体をこわしそう、クビになった...）
- 労働法の基礎的な知識を身に着けることで...
  - 仕事選びに
  - やめずに問題を解決する
  - 自分の権利を確認し、自分で身を守る

新潟労働局が、  
労働法の基礎的な知識や困ったときの相談窓口をご紹介します。

## 1. 口腔乾燥に対する半球状ラバー付き歯ブラシの有用性

○筒井紀子<sup>1)</sup>、大森みさき<sup>2)</sup>、今井あかね<sup>1,3)</sup>、土田智子<sup>1)</sup>、煤賀美緒<sup>1)</sup>、三富純子<sup>1)</sup>、宮崎晶子<sup>1)</sup>、佐藤治美<sup>1)</sup>、元井志保<sup>1)</sup>、菊地ひとみ<sup>1)</sup>、両角祐子<sup>4)</sup>、佐野 晃<sup>5)</sup>、大天 繁<sup>5)</sup>

1) 日本歯科大学新潟短期大学歯科衛生学科  
2) 日本歯科大学新潟病院総合診療科  
3) 日本歯科大学新潟生命歯学部生化学講座  
4) 日本歯科大学新潟生命歯学部歯周病学講座  
5) デンタルプロ株式会社

【目的】唾液分泌量は、加齢や薬剤の副作用などの影響により減少するといわれている。唾液分泌量が低下すると口腔細菌が増大し、歯科疾患や口腔カンジダ症などを引き起こすことになりかねない。唾液分泌が促進されれば、口腔乾燥や細菌増殖抑制などの効果を期待できる。そこで今回は、毎日の歯磨きと併せて口腔内からリフトアップマッサージを行うために開発された半球状ラバー付き歯ブラシ（ラバー付き歯ブラシ）および海洋深層水成分を含む保湿液（保湿液）を用い、唾液分泌に変化が生じるか検討することを目的とした。

【対象と方法】加齢とともに唾液分泌が低下するといわれていることから、対象者は日本歯科大学新潟キャンパス内の40歳以上の女性教職員8名（平均年齢49.38歳±4.50）とした。歯ブラシは、ラバー付き歯ブラシ、半球状ラバーがない歯ブラシ（ラバーなし歯ブラシ）を使用した。唾液分泌に対する効果を比較するため、①ラバー付き歯ブラシのみ使用して2分間ブラッシング②ラバーなし歯ブラシのみ使用して2分間ブラッシング③保湿液を舌表面中央部に1回噴射後、ラバー付き歯ブラシを使用して2分間ブラッシング④保湿液を舌表面中央部に1回噴射後、ラバーなし歯ブラシを使用して2分間ブラッシングの4実験を行った。実験は4日間とし、対象者は食事、運動、飲酒などの制限を受けず、実験開始30分前から飲食を控えた。唾液採取を実験前および①～④の各実験後に行った。実験前後の唾液を試料として、唾液分泌量、pH、ナトリウム（Na）濃度、カリウム（K）濃度、Na/K比、分泌型免疫グロブリンA（s-IgA）濃度、総蛋白質（TP）濃度、s-IgA/TP比、クロモグラニンA（CgA）を測定し、比較検討した。

【結果】Na濃度、Na/K比は、①～④の4実験全てにおいて実験後に上昇し有意差が認められた。保湿液を併用したラバー付き歯ブラシの群（③）における唾液分泌量は、実験前の唾液分泌量と比較して実験後に多い傾向がみられた（ $p = 0.07$ ）。

【考察】ラバー付き歯ブラシと保湿液を併用した実験において唾液分泌量が最も多かったことから、歯ブラシの刷毛部背面に付いている半球状ラバーによって口腔内の粘膜が刺激され、さらに保湿液の味で唾液分泌が促進されたと考えられた。

【結論】歯ブラシに付与された半球状ラバーは、ブラッシング時に口腔粘膜を刺激し、唾液分泌を促進する効果があると示唆された。また、海洋深層水成分が含まれた保湿液を併用すると、さらに唾液分泌が促進されることが分かった。

## 2. 平成27年度 歯科衛生科におけるインシデント報告の集計と検討

新潟病院歯科衛生科 ○澤田佳世 土田江見子  
池田裕子 本間浩子

新潟病院口腔外科 戸谷収二  
新潟生命歯学部歯科麻酔学講座 佐野公人

【目的】歯科衛生科のワーキンググループ活動の中で、我々リスクマネジメントグループは平成27年度の短期目標を「対策案をもとに、受付業務に関する事例を減らす」をかかげ、活動を行った。平成27年4月から平成28年3月までに、歯科衛生科へ提出されたインシデント報告書を集計し、インシデント事例に変化があるか検討を行ったので報告する。

【対象】日本歯科大学新潟病院歯科衛生科歯科衛生士30名。日本歯科大学新潟短期大学歯科衛生士8名。

【方法】①インシデント報告件数の比較、②項目別件数の比較、③割合が高い項目の内容分析、④アンケートの集計、の4つに分けて集計と検討を行う。

【結果】①インシデント報告数は66件であった。②項目別で件数が多い項目は、「受付での処理の不備」9件、「職員間の伝達不足」10件、「診療後処理での注意不足」11件、「その他」13件であった。当事者の所属別では、口腔外科からの報告件数が増加した。発生場所別では、多い順に「受付」26件、「ユニット」17件、「消毒室」11件、「診療室」10件であった。③内容分析として、項目別で「その他」が13件と最も多かったのは、「病院実習生が針刺しや器具刺しをしたと報告を受け、対応した。」というような事例が多かった。④アンケートの集計結果として、「閲覧されたインシデント報告書を読んでいますか？」の質問に対して、「読んでいない」の回答が8%であり、その理由として、「閲覧されているのを知らなかった。」があげられた。

【考察】受付業務に関する対策案は、リスクマネジメント総合診療科部会で主に検討・立案されている。平成26年度は総合診療科での「患者誘導間違い」が多く、これに対する対策案が実行されていることにより、平成27年度の受付業務全体のインシデント件数は減少したと考えられる。受付業務に携わる職種は、我々歯科衛生士だけでなく、受付事務員や放射線科技士、病院実習生など様々である。他科との連携も多くあり、基本となる「確認」「伝達」や、対応に困った時の「相談」が、「受付業務」に関するインシデント事例を防止する3大要素であると考える。

<p>3. 日本歯科大学新潟病院歯科衛生科 口腔ケアグループ平成 27 年度活動報告</p>
<p>新潟病院歯科衛生科 ○鈴木明子 風間雅恵 榎 佳美 渡部 泉</p>
<p>【目的】近年、歯科衛生士の専門的ケアは患者や多職種からの必要性が求められている。そこで、私たち口腔ケアグループでは、長期目標を「患者ニーズに対する口腔ケアサービスを提供する」平成 27 年度の短期目標は「口腔ケアに関する情報を周知し活用する」とし、より質の高い口腔ケアの提供ができるよう活動を行いましたので、その活動および平成 27 年度に行ったアンケート結果を報告する。</p> <p>【対象】日本歯科大学新潟病院歯科衛生科 30 名</p> <p>【方法】平成 27 年度、現任教育のための院内研修を 4 回行い、その後アンケートを実地した。卒業年数の他、以上の 6 項目で調査を行った。</p> <p>①開催時間 ②開催場所 ③研修内容 ④今後の活用について ⑤出席の理由 ⑥その他 意見・要望</p> <p>①から④は 5 段階評価とし、⑤の出席の理由は複数回答とし、⑥のその他 意見・要望は自由記載とした。</p> <p>【結果】平成 27 年度、行った 4 回の研修会は 2 日間、時間も 2 回に分けて行ったため、出席率はほぼ 100%近い値となった。①の開催時間については「適当（非常に適当も含む）」が 88%と過去 2 年間のアンケート結果に比べ低い値となった。理由としては診療室での引き継ぎの時間がないため、との意見があげられた。③の研修内容に関しては「興味があった（非常に興味があったも含む）」が 80%に対し平成 25 年度と同じアンケート調査では 91%であった。</p> <p>【考察】平成 27 年度の今後の活用については半数以上が「活かそう」との回答があったが、過去 3 年間の研修後のアンケート結果より、開催内容については検討していく必要があると思われる。業者から依頼のある研修会が多かったため、今後は配属科により患者に適した口腔ケアができるよう情報提供し、技術向上のための研修会を検討する必要があると考える。また、平成 28 年度は今まで研修会で紹介した活用状況についても調査していきたいと考える。</p>

<p>4. 歯科衛生科 平成 27 年度教育グループ活動報告</p>
<p>新潟病院歯科衛生科 ○中島瑞恵 遠藤祐香 島由美子</p>
<p>【はじめに】 われわれ教育グループは「大学病院に勤務する歯科衛生士として必要な知識・技術・態度を修得し、良質な医療と教育を提供するための現任教育を確立する」を長期目標に掲げて活動してきた。H27 年度は従来の活動内容に加え、新たに新入職者マニュアルの運用を開始した。新入職者マニュアルとは歯科衛生科の各ワーキンググループごとに 1 年間で修得する必要がある専門的内容をまとめたマニュアルである。今回、H27 年度との活動報告とともに新入職者マニュアルを使用した新人教育について報告する。</p> <p>【活動内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報提供（広報誌：PrePre だより）</li> <li>2. 現任教育のコーディネート</li> <li>3. 教育グループ現任教育</li> <li>4. 学内外の研修会・学会の参加状況の調査</li> <li>5. 歯科衛生科新入職者マニュアルの運用</li> </ol> <p>【活動結果】 新入職者マニュアルは H27 年度に採用された新入職者から運用を開始した。教育グループでは、『大学病院の歯科衛生士であることを自覚し、学生指導の目的の理解と学生指導のための知識・技術・態度を修得する』を一般目標とし、10 項目の行動目標を設置した。講義は主にプレゼンテーションなどの視覚媒体を用いて行った。評価はレポートや口頭試験、観察記録にて行った。また、月に 1 度、配属科の歯科衛生士と話し合いの場を設け、新入職者の近況を確認してマニュアルを進めていった。教育グループで設定したそれぞれの行動目標に合わせた講義等を実施していったが、予定した内容を全て実施することはできなかった。</p> <p>【考察・まとめ】 H27 年度は新入職者マニュアルを運用開始 1 年目であったためか、教育グループでは達成できなかった行動目標がいくつかあった。それは新入職者の技量や状況などを考慮し、実施時期を延期しできなかったこと。そして、内容自体が過密であったことが考えられた。</p> <p>新入職者の知識や技量には個人差があるため、マニュアルの進行状況を把握し、再考することも重要である。まだ開始 1 年であるため、現行のマニュアルを数年間試行的に運用し、問題点を洗い出し、改善していくことにより本院歯科衛生士として本当に必要なマニュアルを作っていきたい。</p>

5. 平成 27 年年度歯科治療技術・材料グループ  
活動報告〈5S ラウンド評価基準に基づく材料管理の現状〉

新潟病院歯科衛生科 ○松岡恵理子 藤田浩美  
古厩かおり 松田知子

【目的】 歯科治療技術・材料グループは年に 2 回の院内ラウンドを行い、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）に基づいて診療室の安全確保につながる活動を実施している。平成 26 年度では、9 項目を評価者の判断において「良い」から「悪い」までの 4 段階で評価を行った。これでは、評価の結果に評価者による個人差が生じていると考えられた。平成 27 年度は、評価者の客観的視点を標準化し評価者間の差を可及的に解消して評価結果の明瞭化をめざした。

【方法】 院内ラウンドで使用するチェックシートの 4 段階評価において各段階に評価ポイントを設けた。これを活用して院内ラウンドを 2 回実施した。平成 27 年 9 月と平成 28 年 3 月に評価者 4 名で評価対象の部署を分担し 1 回目と 2 回目は同一評価者が担当した。

【結果】 評価ポイントが示されたことにより「ラベル表示・エリア区分」整理・整頓では、ラベルやエリアの有無だけでなく破損や汚れのない表示・わかりやすいエリアを確認することができた。清潔・清掃では、清掃実施の有無や清潔維持への配慮など、平成 27 年度では改善傾向がみられた。評価者は統一された評価ポイントを参考にすることから、評価しやすくなり院内ラウンドに要する時間が短縮された。また評価者によるコメントの増加も見られた。

【考察】 ラウンドチェックのための評価ポイントを設定することにより、評価の基準が明確となり標準化・客観的な着目点を得られたのではないかと。評価時のコメントの増加によりフィードバックの充実も見られまた、評価者のみならずセルフチェックを行う際にも評価ポイントが明確になったことで、これまで曖昧であったことや注意すべき点に気づくヒントになったのではないかとと思われる。歯科治療材料などの棚に収納できる小物の整理・整頓は個別収納箱、表示シールなどを用いることにより取り組みが容易であったと思われる。置き場所・置き方が決まり物を探すという無駄な行動を一掃でき、それにより作業効率の向上へとつながり余剰材料の減少、使用期限のチェックなど管理しやすい体制が整ったのではないかと考察する。今後の課題として、機器類の整理・整頓と一部清掃に関しては、歯科衛生士だけの問題ではなく診療・診療介助に係る歯科医師、臨床実習生、病院実習生などとの協力も必要であると考える。

6. 患者サービス向上グループ

H27 年度活動報告及び今後の方向性の検討

新潟病院歯科衛生科 ○片桐美和 大澤えり子  
佐々木典子 拝野敏子

【目的】 患者サービス向上グループでは『歯科衛生士として患者の満足に対応できる患者サービスの技術を身につけ提供する』を長期目標に活動している。H27 年度の活動を報告すると共に、今後の活動をより充実させるため、今後の方向性を検討した。

【活動内容】 平成 27 年度は主に以下の活動を行った。

- ・ 院外セミナー参加
- ・ 新入職者マニュアルの運用
- ・ 第 43 回歯科衛生研究会にて研究発表
- ・ 各科セルフチェック（毎月）
- ・ 院内ラウンド(年 4 回)
- ・ 現任教育研修会の開催（アンケートの実地）

【活動結果】 他者評価よりも自己評価で『できない』との回答が多かった項目は「待合室の患者さんに気配り・目配りできているか」「忙しくても普段と同じ対応ができていないか」「診療室で大きな物音や不快音はしないか」「スタッフ間の言葉遣いは適切か」であった。研修直後アンケートでは以前の研修内容の振り返りを加えたことに関して肯定的回答が多くみられ、今後も継続してほしいとの結果が得られた。また、研修 5 ヶ月後アンケートでは「怒りのコントロール方法」について日常に活かしているが「アサーティブな伝え方」についてはもう一度聞きたいとの回答が多く、患者サービスに関しては、クレーム対応に不安があるとの結果を得た。さらに、研修直後と 5 ヶ月後の比較では、研修直後の方がほとんどの患者サービス項目について興味が高かった一方で、唯一クレーム対応については 5 ヶ月後の方が興味が高いことが分かった。

【考察】 ラウンドチェックはタイミングの影響を考慮し、タイミングや回数、項目の検討が必要。

- ・ 現任研修において以前の研修内容の振り返りを加えることは復習や欠席者への情報提供として有効と考える。
- ・ 患者サービスの情報に触れる機会を増やすことでモチベーション維持に貢献できると考える。
- ・ 1 月と比較しクレーム対応について興味が高まっていることに関して、病院システムの変化から説明・謝罪の機会が増えている背景があるのではないかと考えられた。

【まとめ】 環境の変化を感じ取り、環境に応じた情報発信していく努力が必要と感じた。また、個々のモチベーションをいかに向上・継続させるかに視点を置いた活動が必要と感じた。



次回の「歯科衛生研究会」は平成 29 年 2 月 22 日に開催する予定です。  
多数の講演の申し込みをお待ちしております。